

1 人口と世帯

(1) 総人口(推計値)の推移 —総人口(推計値)は1,042,998人—

令和元年10月1日現在の本県の総人口は前年比7,248人(0.69%)減の1,042,998人となった。

総人口の推移をみると、大正9年から昭和25年までは比較的順調な伸びで増加し、昭和25年の国勢調査で初めて100万人台に達した。その後、全国的な大都市圏への社会移動(転出超過)が続き増加率は低下したが、昭和40年代後半からこの社会移動が減少傾向となったこと及び昭和46年から49年にかけて第2次ベビーブームを迎えたことにより、増加率は上昇に転じた。しかし、昭和50年代後半以降、出生者数の減少から増加率は再び低下し、平成初期には減少に転じた。その後、平成5～9年にかけて転入超過が続き、増加率は横ばいで推移したが、平成11年には出生者数が死亡者数を初めて下回り総人口は減少に転じた。

令和元年は、自然動態では6,435人の減少(17年連続)、また、社会動態では4年ぶりに813人の転出超過となり、総人口は21年連続して減少した。

全国総人口に占める本県の割合は、昭和22年以降年々低下し、昭和45年には1%を割り、令和元年では、0.83%となっている。

人口密度(1km²当たり)は県全体で245.6人となっている。(図1・2、表1)

図1 総人口の推移

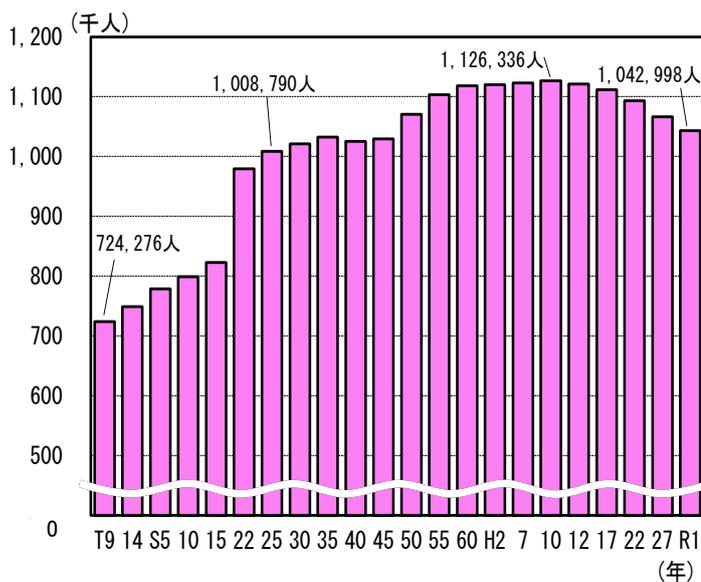


図2 総人口及び増減率(対前年)の推移
(平成21～令和元年)

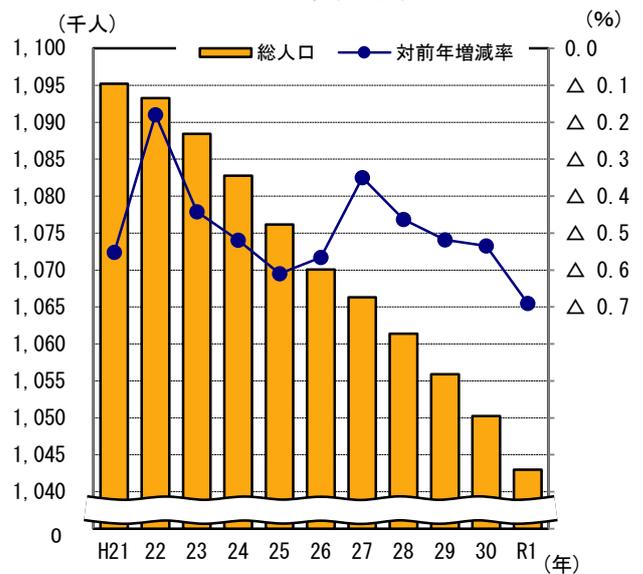


表1 総人口の推移

年次	総人口	対前回(年) 増減数	増減率		人口密度 1km ² 当たり	全国人口に 占める割合	指数 大正9年=100
			対前回 *1	年平均 *2			
	人	人	%	%	人	%	
大正9年※	724,276	-	-	-	170.1	1.29	100.0
14※	749,243	24,967	3.45	0.68	176.0	1.25	103.4
昭和5年※	778,953	29,710	3.97	0.78	183.0	1.21	107.5
10※	798,890	19,937	2.56	0.51	187.6	1.15	110.3
15※	822,569	23,679	2.96	0.58	193.2	1.13	113.6
22※	979,229	156,660	19.05	2.48	230.0	1.25	135.2
25※	1,008,790	29,561	3.02	0.99	237.0	1.20	139.3
30※	1,021,121	12,331	1.22	0.24	240.1	1.13	141.0
35※	1,032,614	11,493	1.13	0.22	242.9	1.10	142.6
40※	1,025,465	△7,149	△0.69	△0.14	241.2	1.03	141.6
45※	1,029,695	4,230	0.41	0.08	242.2	0.98	142.2
50※	1,070,791	41,096	3.99	0.78	251.8	0.96	147.8
55※	1,103,459	32,668	3.05	0.60	259.5	0.94	152.4
60※	1,118,369	14,910	1.35	0.27	263.0	0.92	154.4
平成2年※	1,120,161	1,792	0.16	0.03	263.8	0.91	154.7
7※	1,123,125	2,964	0.26	0.05	264.5	0.89	155.1
8	1,125,130	2,005	0.18	-	265.0	0.89	155.3
9	1,126,192	1,062	0.09	-	265.2	0.89	155.5
10	1,126,336	144	0.01	-	265.2	0.89	155.5
11	1,125,177	△1,159	△0.10	-	265.0	0.89	155.4
12※	1,120,851	△4,326	△0.38	-	263.9	0.88	154.8
13	1,120,320	△531	△0.05	-	263.8	0.88	154.7
14	1,118,518	△1,802	△0.16	-	263.4	0.88	154.4
15	1,116,926	△1,592	△0.14	-	263.0	0.88	154.2
16	1,116,306	△620	△0.06	-	262.8	0.87	154.1
17※	1,111,729	△4,577	△0.41	-	261.7	0.87	153.5
18	1,109,205	△2,524	△0.23	-	261.1	0.87	153.1
19	1,105,312	△3,893	△0.35	-	260.2	0.87	152.6
20	1,101,292	△4,020	△0.36	-	259.3	0.86	152.1
21	1,095,217	△6,075	△0.55	-	257.8	0.86	151.2
22※	1,093,247	△1,970	△0.18	-	257.4	0.85	150.9
23	1,088,409	△4,838	△0.44	-	256.2	0.85	150.3
24	1,082,763	△5,646	△0.52	-	254.9	0.85	149.5
25	1,076,158	△6,605	△0.61	-	253.4	0.85	148.6
26	1,070,070	△6,088	△0.57	-	251.9	0.84	147.7
27※	1,066,328	△3,742	△0.35	-	251.0	0.84	147.2
28	1,061,393	△4,935	△0.46	-	249.9	0.84	146.5
29	1,055,893	△5,500	△0.52	-	248.6	0.83	145.8
30	1,050,246	△5,647	△0.53	-	247.3	0.83	145.0
令和元年	1,042,998	△7,248	△0.69	-	245.6	0.83	144.0

(注) 各年10月1日現在。※は「国勢調査」、その他は「富山県人口移動調査」による。

*1 対前回増減率=(Pt-Po)/Po×100

*2 年平均増減率={(Pt-Po)/t}/{(Pt+Po)/2}×100

Pt:時点tの人口 Po:時点oの人口 t:期間の長さ(年) t>o

(2) 総世帯数(推計値)の推移 —世帯数(推計値)は409,109世帯で1.03%増加—

総世帯数は終戦直後の昭和22年に大幅に増加した(2.66%/年平均)。その後、伸び率が一旦低下したが再び上昇し、昭和35～55年は年平均1.4～1.6%台の伸び率で増加した。平成に入ってから、概ね1.0%前後の伸び率で増加傾向が続いている。令和元年10月1日現在の総世帯数は409,109世帯で、前年に比べて4,180世帯(1.03%)増加した。

世帯規模を示す一世帯当たりの人員は、昭和25年の5.23人をピークに減少し続けており、令和元年は2.55人で、前年に比べて0.04人の減少となった。(表2、図3)

表2 総世帯数の推移

年次	総世帯数	対前回(年)増加数	増加率		一世帯当たり人員*3	指数 大正9年=100
			対前回*1	年平均*2		
	世帯	世帯	%	%	人	
大正9年※	141,255	-	-	-	5.13	100.0
14※	145,784	4,529	3.21	0.63	5.14	103.2
昭和5年※	150,662	4,878	3.35	0.66	5.17	106.7
10※	154,917	4,255	2.82	0.56	5.16	109.7
15※	159,243	4,326	2.79	0.55	5.17	112.7
22※	191,920	32,677	20.52	2.66	5.10	135.9
25※	192,815	895	0.47	0.16	5.23	136.5
30※	199,332	6,517	3.38	0.66	5.12	141.1
35※	214,099	14,767	7.41	1.43	4.82	151.6
40※	230,297	16,198	7.57	1.46	4.45	163.0
45※	248,345	18,048	7.84	1.51	4.15	175.8
50※	269,323	20,978	8.45	1.62	3.98	190.7
55※	291,388	22,065	8.19	1.57	3.79	206.3
60※	300,526	9,138	3.14	0.62	3.72	212.8
平成2年※	314,602	14,076	4.68	0.92	3.56	222.7
7※	337,290	22,688	7.21	1.39	3.33	238.8
12※	357,574	20,284	6.01	1.17	3.13	253.1
17※	371,815	14,241	3.98	0.78	2.99	263.2
18	376,461	4,646	1.25	-	2.95	266.5
19	379,528	3,067	0.81	-	2.91	268.7
20	382,994	3,466	0.91	-	2.88	271.1
21	384,274	1,280	0.33	-	2.85	272.0
22※	383,439	△ 835	△ 0.22	-	2.85	271.5
23	386,023	2,584	0.67	-	2.82	273.3
24	389,103	3,080	0.80	-	2.78	275.5
25	391,799	2,696	0.69	-	2.75	277.4
26	394,666	2,867	0.73	-	2.71	279.4
27※	391,171	△ 3,495	△ 0.89	-	2.73	276.9
28	395,612	4,441	1.14	-	2.68	280.1
29	400,065	4,453	1.13	-	2.64	283.2
30	404,929	4,864	1.22	-	2.59	286.7
令和元年	409,109	4,180	1.03	-	2.55	289.6

(注) 各年10月1日現在。※は「国勢調査」、その他は「富山県人口移動調査」による。

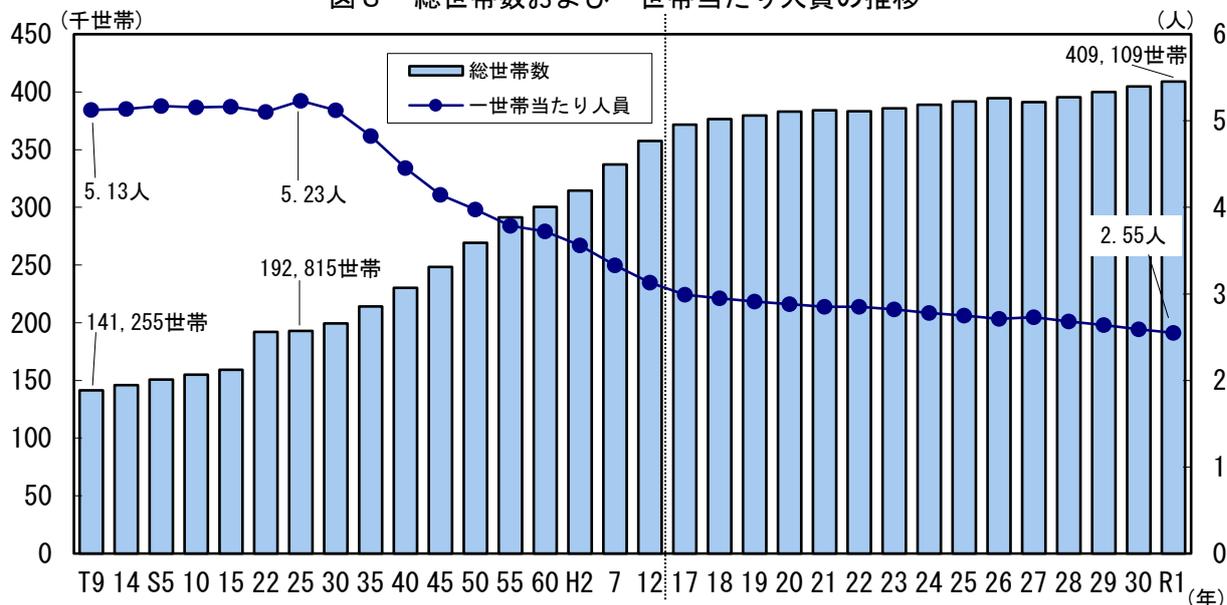
*1 対前回増加率=(Ht-Ho)/Ho × 100

*2 年平均増加率={ (Ht-Ho)/t } / { (Ht+Ho)/2 } × 100

Ht: 時点tの世帯数 Ho: 時点oの世帯数 t: 期間の長さ(年) t>o

*3 一世帯当たり人員=総人口/総世帯数

図3 総世帯数および一世帯当たり人員の推移



(3) 市町村別人口 ー人口増加は2市村、滑川市6人及び舟橋村51人。

人口減少は富山市の△1,516人が最大ー

令和元年の市町村別人口は、富山市の415,816人が最高で、高岡市の167,800人、射水市の90,877人と続いている。富山市と高岡市を合わせると583,616人で県人口の過半数を占めている。

市町村別の人口増減をみると、前年に比べて総人口が増加した市町村は2市村のみで、舟橋村が51人、滑川市が6人増加した。増加率は舟橋村が1.67%、滑川市が0.02%であった。

一方、総人口が減少したのは13市町（9市4町）で、人口減少数が最も多いのは富山市の△1,516人、減少率が最も高いのは朝日町の△2.18%であった。（表3・4・5、図4）

表3 市町村別人口増減数・増減率

市町村名	H30年10月1日	H30年10月1日～R1年9月30日			R1年10月1日	増減率
	総人口(推計)	までの人口増減数			総人口(推計)	
	(A)	自然増減(a)	社会増減(b)	計(a+b)=B	(A+B)	(B/A×100)
	人	人	人	人	人	%
県計	1,050,246	△6,435	△813	△7,248	1,042,998	△0.69
富山市	417,332	△1,704	188	△1,516	415,816	△0.36
高岡市	169,277	△1,143	△334	△1,477	167,800	△0.87
魚津市	41,874	△327	△21	△348	41,526	△0.83
氷見市	45,791	△542	△375	△917	44,874	△2.00
滑川市	32,494	△134	140	6	32,500	0.02
黒部市	40,474	△196	△47	△243	40,231	△0.60
砺波市	48,377	△283	22	△261	48,116	△0.54
小矢部市	29,394	△285	△28	△313	29,081	△1.06
南砺市	49,196	△536	△220	△756	48,440	△1.54
射水市	91,129	△423	171	△252	90,877	△0.28
舟橋村	3,055	3	48	51	3,106	1.67
上市町	20,171	△213	△153	△366	19,805	△1.81
立山町	25,705	△212	△73	△285	25,420	△1.11
入善町	24,480	△270	△50	△320	24,160	△1.31
朝日町	11,497	△170	△81	△251	11,246	△2.18

図4 市町村別人口増減数 (H30.10.1～R1.9.30)



表4 人口別市町村の順位

(人)

順位	市町村名	人口
1	富山市	415,816
2	高岡市	167,800
3	射水市	90,877
4	南砺市	48,440
5	砺波市	48,116
6	氷見市	44,874
7	魚津市	41,526
8	黒部市	40,231
9	滑川市	32,500
10	小矢部市	29,081
11	立山町	25,420
12	入善町	24,160
13	上市町	19,805
14	朝日町	11,246
15	舟橋村	3,106

(注) 令和元年10月1日現在。

表5 人口増減別市町村の順位

順位	人口増加市町村				順位	人口減少市町村			
	増加数		対前年増加率			減少数		対前年減少率	
		人		%		人		%	
1	舟橋村	51	舟橋村	1.67	1	富山市	△ 1,516	朝日町	△ 2.18
2	滑川市	6	滑川市	0.02	2	高岡市	△ 1,477	氷見市	△ 2.00
					3	氷見市	△ 917	上市町	△ 1.81
					4	南砺市	△ 756	南砺市	△ 1.54
					5	上市町	△ 366	入善町	△ 1.31
					6	魚津市	△ 348	立山町	△ 1.11
					7	入善町	△ 320	小矢部市	△ 1.06
					8	小矢部市	△ 313	高岡市	△ 0.87
					9	立山町	△ 285	魚津市	△ 0.83
					10	砺波市	△ 261	黒部市	△ 0.60
					11	射水市	△ 252	砺波市	△ 0.54
					12	朝日町	△ 251	富山市	△ 0.36
					13	黒部市	△ 243	射水市	△ 0.28

(注) 人口増減数=令和元年10月1日現在人口-平成30年10月1日現在人口
 人口増減率(対前年)=人口増減数/平成30年10月1日現在人口×100

(4) 人口構造

① 男女別人口 -全国より0.5ポイント低い人口性比-

令和元年の総人口を男女別にみると、男性506,191人（構成比48.5%）、女性536,807人（同51.5%）で、女性が男性に比べて30,616人多くなった。また、前年と比べて男性が3,267人（0.64%）、女性が3,981人（0.74%）それぞれ減少している。

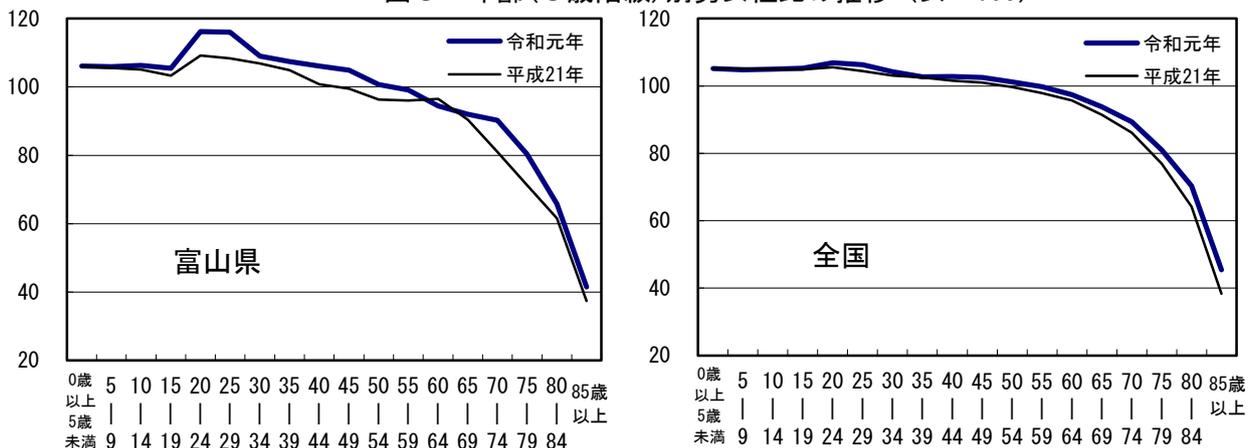
次に、性比（女性100人に対する男性の数）をみると令和元年は94.3、全国（94.8）よりも0.5ポイント低くなっている。年齢階級別に全国と比較すると、富山県の性比と全国の性比ともに55歳以上で100を下回っている。（表6、図5）

表6 男女別人口の推移

年次	人 口 (人)			性比 (女=100)	
	男 女 計	男	女	富 山 県	全 国
大正9年※	724,276	354,775	369,501	96.0	100.4
14※	749,243	368,593	380,650	96.8	101.0
昭和5年※	778,953	381,809	397,144	96.1	101.0
10※	798,890	388,771	410,119	94.8	100.6
15※	822,569	401,261	421,308	95.2	100.0
22※	979,229	472,829	506,400	93.4	95.4
25※	1,008,790	488,850	519,940	94.0	96.2
30※	1,021,121	494,109	527,012	93.8	96.5
35※	1,032,614	500,545	532,069	94.1	96.5
40※	1,025,465	491,662	533,803	92.1	96.4
45※	1,029,695	492,492	537,203	91.7	96.4
50※	1,070,791	514,991	555,800	92.7	96.9
55※	1,103,459	532,686	570,773	93.3	96.9
60※	1,118,369	538,955	579,414	93.0	96.7
平成2年※	1,120,161	538,640	581,521	92.6	96.5
7※	1,123,125	540,921	582,204	92.9	96.2
12※	1,120,851	540,212	580,639	93.0	95.8
17※	1,111,729	535,617	576,112	93.0	95.3
18	1,109,205	534,933	574,272	93.1	95.2
19	1,105,312	532,911	572,401	93.1	95.2
20	1,101,292	530,867	570,425	93.1	95.1
21	1,095,217	527,392	567,825	92.9	95.0
22※	1,093,247	526,605	566,642	92.9	94.8
23	1,088,409	524,636	563,773	93.1	94.8
24	1,082,763	522,037	560,726	93.1	94.7
25	1,076,158	519,048	557,110	93.2	94.7
26	1,070,070	516,174	553,896	93.2	94.7
27※	1,066,328	515,147	551,181	93.5	94.8
28	1,061,393	513,404	547,989	93.7	94.8
29	1,055,893	511,433	544,460	93.9	94.8
30	1,050,246	509,458	540,788	94.2	94.8
令和元年	1,042,998	506,191	536,807	94.3	94.8

(注) 各年10月1日現在。※は「国勢調査」、その他は富山県は「富山県人口移動調査」、全国は総務省「人口推計」（令和元年全国は概算値より算出）による。

図5 年齢(5歳階級)別男女性比の推移(女=100)



(注) 富山県は「富山県人口移動調査」、全国は総務省「人口推計」（令和元年は概算値）による。

② 年齢別人口 -全国より3.8ポイント高い老年人口割合-

ア 県計

令和元年の総人口を年齢3区分別にみると、「15歳未満の年少人口」が118,798人（構成比11.5%）、「15～64歳の生産年齢人口」が581,388人（同56.2%）、「65歳以上の老年人口」が333,776人（同32.3%）となっている。

前年と比較すると、年少人口では2,580人（2.1%）の減少、生産年齢人口では5,825人（1.0%）の減少、老年人口では1,157人（0.3%）の増加となっている。構成比を前年と比較すると、年少人口では0.2ポイント低下、生産年齢人口では0.2ポイント低下、老年人口は0.4ポイント上昇した。（図6、表7）

図6 年齢3区分別人口割合の推移

(年)	(%)		
T9	40.2	54.3	5.5
S25	35.8	58.9	5.3
50	23.0	67.5	9.5
55	22.7	66.2	11.2
60	20.9	66.2	12.8
H2	17.5	67.4	15.1
7	15.1	66.9	17.9
12	14.0	65.2	20.8
15	13.7	64.0	22.4
16	13.6	63.7	22.7
17	13.5	63.3	23.3
18	13.4	62.7	23.8
19	13.3	62.1	24.6
20	13.3	61.5	25.2
21	13.2	60.9	25.9
22	13.0	60.8	26.2
23	12.9	60.7	26.4
24	12.8	59.6	27.6
25	12.6	58.7	28.7
26	12.5	57.8	29.7
27	12.2	57.3	30.5
28	12.0	56.9	31.1
29	11.8	56.6	31.6
30	11.7	56.4	31.9
R1	11.5	56.2	32.3

15歳未満

15～64歳

65歳以上

表7 年齢3区分別人口の推移

(割合：総人口=100)

年次	総数	年少人口（15歳未満）			生産年齢人口（15～64歳）			老年人口（65歳以上）		
		人口	増減率	割合	人口	増減率	割合	人口	増減率	割合
大正9年※	724,276	290,997	—	40.2	393,489	—	54.3	39,790	—	5.5
14※	749,243	292,017	0.4	39.0	418,688	6.4	55.9	38,538	△ 3.1	5.1
昭和5年※	778,953	292,812	0.3	37.6	449,281	7.3	57.7	36,860	△ 4.4	4.7
10※	798,890	299,595	2.3	37.5	461,036	2.6	57.7	38,259	3.8	4.8
15※	822,569	298,947	△ 0.2	36.3	481,772	4.5	58.6	41,809	9.3	5.1
22※	979,229	349,518	16.9	35.7	580,216	20.4	59.3	49,495	18.4	5.1
25※	1,008,790	361,557	3.4	35.8	594,073	2.4	58.9	53,117	7.3	5.3
30※	1,021,121	347,493	△ 3.9	34.0	614,972	3.5	60.2	58,645	10.4	5.7
35※	1,032,614	307,923	△ 11.4	29.8	662,018	7.7	64.1	62,673	6.9	6.1
40※	1,025,465	246,284	△ 20.0	24.0	709,713	7.2	69.2	69,468	10.8	6.8
45※	1,029,695	229,658	△ 6.8	22.3	716,831	1.0	69.6	83,206	19.8	8.1
50※	1,070,791	246,399	7.3	23.0	723,024	0.9	67.5	101,265	21.7	9.5
55※	1,103,459	249,935	1.4	22.7	730,099	1.0	66.2	123,407	21.9	11.2
60※	1,118,369	233,965	△ 6.4	20.9	740,728	1.5	66.2	143,646	16.4	12.8
平成2年※	1,120,161	195,598	△ 16.4	17.5	754,081	1.8	67.4	168,946	17.6	15.1
7※	1,123,125	170,045	△ 13.1	15.1	751,639	△ 0.3	66.9	201,320	19.2	17.9
12※	1,120,851	157,179	△ 7.6	14.0	730,541	△ 2.8	65.2	232,733	15.6	20.8
17※	1,111,729	149,545	△ 4.9	13.5	702,924	△ 3.8	63.3	258,317	11.0	23.3
18	1,109,205	148,724	△ 0.5	13.4	695,259	△ 1.1	62.7	264,279	2.3	23.8
19	1,105,312	147,416	△ 0.9	13.3	685,487	△ 1.4	62.1	271,466	2.7	24.6
20	1,101,292	146,383	△ 0.7	13.3	677,158	△ 1.2	61.5	276,808	2.0	25.2
21	1,095,217	144,753	△ 1.1	13.2	666,251	△ 1.6	60.9	283,270	2.3	25.9
22※	1,093,247	141,936	△ 1.9	13.0	662,072	△ 0.6	60.8	285,102	0.6	26.2
23	1,088,409	140,079	△ 1.3	12.9	658,247	△ 0.6	60.7	285,946	0.3	26.4
24	1,082,763	137,721	△ 1.7	12.8	643,043	△ 2.3	59.6	297,862	4.2	27.6
25	1,076,158	135,271	△ 1.8	12.6	629,168	△ 2.2	58.7	307,582	3.3	28.7
26	1,070,070	132,886	△ 1.8	12.5	616,124	△ 2.1	57.8	316,923	3.0	29.7
27※	1,066,328	128,848	△ 3.0	12.2	605,545	△ 1.7	57.3	322,899	1.9	30.5
28	1,061,393	126,393	△ 1.9	12.0	598,740	△ 1.1	56.9	327,224	1.3	31.1
29	1,055,893	123,690	△ 2.1	11.8	592,717	△ 1.0	56.6	330,450	1.0	31.6
30	1,050,246	121,378	△ 1.9	11.7	587,213	△ 0.9	56.4	332,619	0.7	31.9
令和元年	1,042,998	118,798	△ 2.1	11.5	581,388	△ 1.0	56.2	333,776	0.3	32.3

(注) 各年10月1日現在。※は「国勢調査」、その他は「富山県人口移動調査」による。総数は年齢不詳を含む。

年齢3区分別人口は、年齢不詳を含まないため、年齢3区分別人口の和は総数に一致しない。

構成比は、分母から年齢不詳を除いて算出。

増減率(対前年(前回))=(各年人口-前年(前回)人口)/前年(前回)人口×100

イ 市町村別 一年少人口割合が最も高いのは舟橋村の 16.8%、

老年人口割合が最も高いのは朝日町の 44.1%—

次に、市町村別に年齢3区分別人口構成割合をみると、それぞれ最も高い市町村は、年少人口では舟橋村で 16.8%(県全体 11.5%)、生産年齢人口では舟橋村で 62.9%(県全体 56.2%)、老年人口では朝日町で 44.1%(県全体 32.3%)となった。(表8)

表8 市町村別・年齢3区分別人口

市町村名	実 数				総数に対する割合		
	総 数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	15歳未満	15～64歳	65歳以上
	人	人	人	人	%	%	%
県 計	1,042,998	118,798	581,388	333,776	11.5	56.2	32.3
富 山 市	415,816	49,328	240,686	123,306	11.9	58.2	29.8
高 岡 市	167,800	17,950	90,357	55,304	11.0	55.2	33.8
魚 津 市	41,526	4,315	22,735	14,236	10.5	55.1	34.5
氷 見 市	44,874	4,223	23,250	17,395	9.4	51.8	38.8
滑 川 市	32,500	4,051	18,609	9,713	12.5	57.5	30.0
黒 部 市	40,231	4,740	22,128	12,610	12.0	56.1	31.9
砺 波 市	48,116	6,069	27,319	14,507	12.7	57.0	30.3
小 矢 部 市	29,081	2,981	15,353	10,734	10.3	52.8	36.9
南 砺 市	48,440	5,108	24,569	18,723	10.6	50.8	38.7
射 水 市	90,877	11,433	51,409	27,706	12.6	56.8	30.6
舟 橋 村	3,106	521	1,953	631	16.8	62.9	20.3
上 市 町	19,805	1,971	10,614	7,207	10.0	53.6	36.4
立 山 町	25,420	2,775	13,947	8,148	11.2	56.1	32.8
入 善 町	24,160	2,405	13,101	8,596	10.0	54.4	35.7
朝 日 町	11,246	928	5,358	4,960	8.3	47.6	44.1

(注) 令和元年10月1日現在。総数は年齢不詳を含む。

年齢3区分別人口は、年齢不詳を含まないため、年齢3区分別人口の和は総数に一致しない。

構成比は、分母から年齢不詳を除いて算出。

ウ 全国との比較

本県の年齢3区分別人口構成割合（年少人口 11.5%、生産年齢人口 56.2%、老年人口 32.3%）を全国（年少人口 12.1%、生産年齢人口 59.5%、老年人口 28.5%）と比べると、年少人口で 0.6 ポイント、生産年齢人口で 3.3 ポイント低く、対照的に老年人口では 3.8 ポイント高い。また、75 歳以上の後期高齢者については、富山県が 16.9%で、全国の 14.7%より 2.2 ポイント高くなっている。

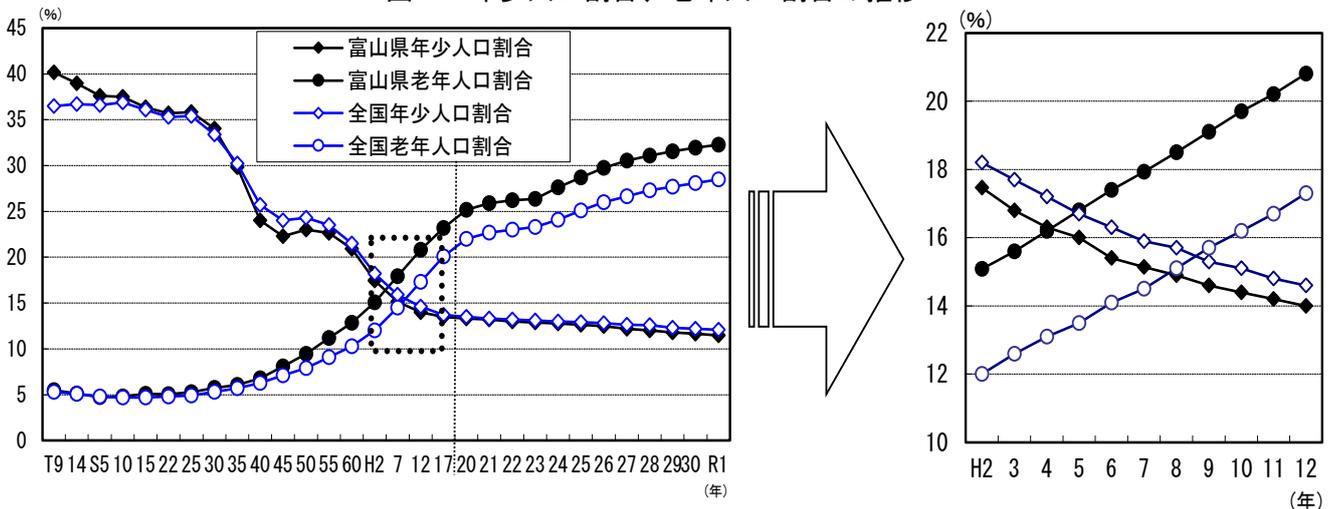
老年人口が年少人口を上回ったのは、富山県では平成 5 年から、全国では平成 9 年からで、ともにその差は拡大している。（表 9、図 7）

表 9 年齢3区分別人口割合の推移

年次	年少人口割合 (15歳未満)			生産年齢人口割合 (15～64歳)		老年人口割合 (65歳以上)				
	富山県	全国順位	全国	富山県	全国	富山県	全国順位	全国	(75歳以上)	
	%	位	%	%	%	%	位	%	%	%
大正9年※	40.2	3	36.5	54.3	58.3	5.5	24	5.3	1.7	1.3
14※	39.0	11	36.7	55.9	58.2	5.1	31	5.1	1.4	1.4
昭和5年※	37.6	22	36.6	57.7	58.7	4.7	33	4.8	1.5	1.4
10※	37.5	27	36.9	57.7	58.5	4.8	30	4.7	1.3	1.3
15※	36.3	28	36.1	58.6	59.2	5.1	20	4.7	1.2	1.2
22※	35.7	—	35.3	59.3	59.9	5.1	—	4.8	1.0	1.1
25※	35.8	24	35.4	58.9	59.6	5.3	24	4.9	1.3	1.3
30※	34.0	24	33.4	60.2	61.2	5.7	25	5.3	1.7	1.5
35※	29.8	32	30.2	64.1	64.1	6.1	29	5.7	1.9	1.7
40※	24.0	40	25.7	69.2	68.0	6.8	32	6.3	2.1	1.9
45※	22.3	43	24.0	69.6	68.9	8.1	25	7.1	2.3	2.1
50※	23.0	36	24.3	67.5	67.7	9.5	20	7.9	2.8	2.5
55※	22.7	29	23.5	66.2	67.3	11.2	18	9.1	3.6	3.1
60※	20.9	36	21.5	66.2	68.2	12.8	17	10.3	4.8	3.9
平成2年※	17.5	41	18.2	67.3	69.5	15.1	16	12.0	6.3	4.8
5	16.0	46	16.7	67.3	69.8	16.8	16	13.5	7.0	5.4
7※	15.1	43	15.9	66.9	69.4	17.9	16	14.5	7.5	5.7
9	14.6	44	15.3	66.2	69.0	19.1	17	15.7	8.0	6.2
12※	14.0	40	14.6	65.2	67.9	20.8	18	17.3	9.1	7.1
17※	13.5	40	13.7	63.3	65.8	23.3	19	20.1	11.4	9.1
18	13.4	39	13.6	62.7	65.5	23.8	18	20.8	11.9	9.5
19	13.3	36	13.5	62.1	65.0	24.6	18	21.5	12.3	9.9
20	13.3	35	13.5	61.5	64.5	25.2	15	22.1	12.8	10.4
21	13.2	35	13.3	60.9	63.9	25.9	14	22.7	13.2	10.8
22※	13.0	33	13.2	60.8	63.8	26.2	15	23.0	13.5	11.0
23	12.9	32	13.1	60.7	63.6	26.4	13	23.3	14.0	11.5
24	12.8	34	13.0	59.6	62.9	27.6	10	24.1	14.3	11.9
25	12.6	34	12.9	58.7	62.1	28.7	9	25.1	14.5	12.3
26	12.5	35	12.8	57.8	61.3	29.7	9	26.0	14.7	12.5
27※	12.2	35	12.6	57.3	60.7	30.5	9	26.6	15.0	12.8
28	12.0	34	12.4	56.9	60.3	31.1	10	27.3	15.4	13.3
29	11.8	36	12.3	56.6	60.0	31.6	12	27.7	16.0	13.8
30	11.7	37	12.2	56.4	59.7	31.9	12	28.1	16.4	14.2
令和元年	11.5	...	12.1	56.2	59.5	32.3	...	28.5	16.9	14.7

注) 各年10月1日現在。※は「国勢調査」、その他は富山県は「富山県人口移動調査」、全国は総務省「人口推計」（令和元年は概算値）による。
なお、全国順位については※は「国勢調査」、その他は総務省「人口推計年報」による。

図 7 年少人口割合、老年人口割合の推移



③ 年齢構造指数 — 老年化指数は前年比 7.0 ポイント上昇し 281.0 —

次に、年齢構造指数をみると、現在の生産年齢人口の扶養負担程度を示す従属人口指数（生産年齢人口に対する年少人口と老年人口の合計の割合）は 77.8(全国 68.1)、年少人口指数（生産年齢人口に対する年少人口の割合）は 20.4(全国 20.3)、老年人口指数（生産年齢人口に対する老年人口の割合）は 57.4(全国 47.8)となり、前年に比べて従属人口指数で 0.5 ポイント(全国 0.5 ポイント)上昇した。また、老年化指数（年少人口に対する老年人口の割合）は 281.0(全国 235.8)で、前年と比較して 7.0 ポイント(全国 5.0 ポイント)上昇している。（表 10、図 8）

表 10 年齢構造指数の推移

年次	従属人口指数 *1		年少人口指数 *2		老年人口指数 *3		老年化指数 *4	
	富山県	全国	富山県	全国	富山県	全国	富山県	全国
大正9年※	84.1	71.6	74.0	62.6	10.1	9.0	13.7	14.4
14※	79.0	71.7	69.7	63.0	9.2	8.7	13.2	13.8
昭和5年※	73.4	70.5	65.2	62.4	8.2	8.1	12.6	13.0
10※	73.3	71.1	65.0	63.1	8.3	8.0	12.8	12.6
15※	70.7	69.0	62.1	61.0	8.7	8.0	14.0	13.1
22※	68.8	66.9	60.2	58.9	8.5	8.0	14.2	13.6
25※	69.8	67.7	60.9	59.4	8.9	8.3	14.7	13.9
30※	66.0	63.3	56.5	54.6	9.5	8.7	16.9	15.9
35※	56.0	55.9	46.5	47.0	9.5	8.9	20.4	19.0
40※	44.5	47.1	34.7	37.9	9.8	9.2	28.2	24.4
45※	43.6	45.1	32.0	34.9	11.6	10.3	36.2	29.4
50※	48.1	47.6	34.1	35.9	14.0	11.7	41.1	32.6
55※	51.1	48.4	34.2	34.9	16.9	13.5	49.4	38.7
60※	51.0	46.7	31.6	31.6	19.4	15.1	61.4	47.9
平成2年※	48.3	43.5	25.9	26.2	22.4	17.3	86.4	66.2
7※	49.4	43.9	22.6	23.0	26.8	20.9	118.4	91.2
12※	53.4	46.9	21.5	21.4	31.9	25.5	148.1	119.1
16	56.9	50.1	21.3	20.8	35.6	29.2	167.1	140.3
17※	58.0	51.4	21.3	20.8	36.7	30.5	172.7	146.5
18	59.4	52.6	21.4	20.8	38.0	31.8	177.7	152.6
19	61.1	53.9	21.5	20.8	39.6	33.1	184.1	158.8
20	62.5	55.2	21.6	20.9	40.9	34.3	189.1	164.3
21	64.2	56.5	21.7	20.9	42.5	35.6	195.7	170.4
22※	64.5	56.8	21.4	20.7	43.1	36.1	200.9	174.0
23	64.7	57.1	21.3	20.5	43.4	36.6	204.1	178.1
24	67.7	59.0	21.4	20.6	46.3	38.4	216.3	186.1
25	70.4	61.1	21.5	20.7	48.9	40.4	227.4	194.6
26	73.0	63.2	21.6	20.9	51.4	42.4	238.5	203.3
27※	74.6	64.7	21.3	20.8	53.3	43.9	250.6	210.6
28	75.8	65.8	21.1	20.6	54.7	45.2	258.9	219.2
29	76.6	66.8	20.9	20.5	55.8	46.3	267.2	225.4
30	77.3	67.6	20.7	20.4	56.6	47.2	274.0	230.8
令和元年	77.8	68.1	20.4	20.3	57.4	47.8	281.0	235.8

(注) 各年10月1日現在。※は国勢調査、その他は富山県は「富山県人口移動調査」、全国は総務省「人口推計」（令和元年全国は概算値より算出）。

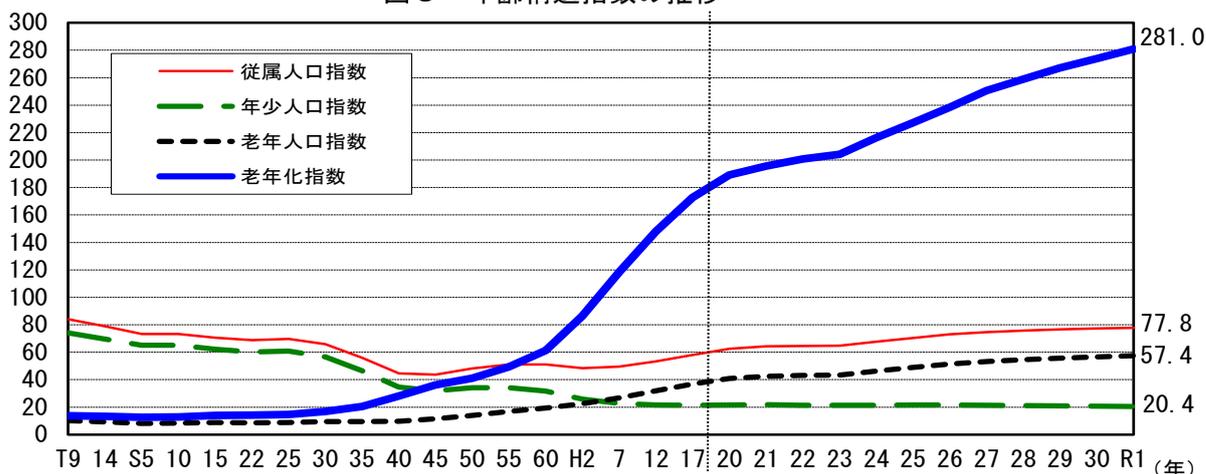
*1 従属人口指数：(15歳未満人口+65歳以上人口)/15~64歳人口×100

*2 年少人口指数：15歳未満人口/15~64歳人口×100

*3 老年人口指数：65歳以上人口/15~64歳人口×100

*4 老年化指数：65歳以上人口/15歳未満人口×100

図 8 年齢構造指数の推移



④ 平均年齢、中位数年齢 —平均年齢0.3歳、中位数年齢は0.4歳上昇—

令和元年10月1日現在の平均年齢は、年少人口が減少し老年人口が増加したため、前年比0.3歳上昇し、49.4歳となった。男女別にみると、男性が47.2歳、女性が51.4歳となっている。

また、中位数年齢(*)も前年に比べて0.4歳上昇し、50.6歳となった。男女別にみると、男性が48.2歳、女性が53.1歳となっている。(表11・12)

* 中位数年齢：人口を年齢順に並べたとき、その中央で人口を2等分する境界点にある年齢。

表11 平均年齢及び中位数年齢の推移

年次	平均年齢						中位数年齢					
	富山県			全国			富山県			全国		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
昭和30年※	28.2	29.3	28.9	27.6	26.9	28.3	24.3	23.3	25.2	23.6	22.8	24.5
35※	29.9	29.1	30.7	29.0	28.3	29.8	26.8	25.9	27.5	25.6	24.7	26.4
40※	31.7	30.9	32.4	30.3	29.6	31.1	29.2	28.5	29.9	27.4	26.6	28.2
45※	33.3	32.4	34.1	31.5	30.6	32.3	31.3	30.5	32.2	29.0	28.2	29.8
50※	34.3	33.2	35.3	32.5	31.5	33.4	33.0	31.9	33.9	30.6	29.4	31.6
55※	35.8	34.6	36.9	33.9	32.9	35.0	34.7	33.5	36.1	32.5	31.7	33.4
60※	37.6	36.3	38.9	35.7	34.5	36.8	37.4	36.5	38.3	35.2	34.1	36.2
平成2年※	39.7	38.3	41.1	37.6	36.4	38.8	40.6	39.3	41.6	37.7	36.3	38.9
7※	41.7	40.1	43.2	39.6	38.3	40.8	43.1	41.4	44.6	39.7	38.2	41.2
12※	43.5	41.7	45.1	41.4	40.1	42.8	45.0	42.8	47.0	41.5	39.8	43.1
17※	45.3	43.3	47.1	43.3	41.9	44.7	46.6	44.1	49.1	43.3	41.6	45.0
22※	46.9	44.9	48.8	45.0	43.4	46.4	48.1	45.5	50.8	45.0	43.3	46.7
23	47.2	45.1	49.1	-	-	-	48.4	45.5	51.1	-	-	-
24	47.5	45.4	49.4	-	-	-	48.6	45.9	51.4	-	-	-
25	47.8	45.7	49.7	-	-	-	49.1	46.2	51.6	-	-	-
26	48.1	45.9	50.0	-	-	-	49.3	46.5	51.9	-	-	-
27※	48.4	46.3	50.3	46.4	44.8	47.9	49.4	46.9	52.1	46.7	45.2	48.3
28	48.6	46.5	50.6	-	-	-	49.6	47.2	52.4	-	-	-
29	48.9	46.7	50.9	-	-	-	49.9	47.5	52.9	-	-	-
30	49.1	46.9	51.1	-	-	-	50.2	47.8	52.8	-	-	-
令和元年	49.4	47.2	51.4	-	-	-	50.6	48.2	53.1	-	-	-

(注) 各年10月1日現在。※は国勢調査、その他は富山県は「富山県人口移動調査」による。

表12 平均年齢、中位数年齢の市町村順位

順位	平均年齢 (歳)		中位数年齢 (歳)	
1	舟橋村	43.2	舟橋村	44.9
2	射水市	48.0	富山市	48.7
3	滑川市	48.0	射水市	48.7
4	富山市	48.0	砺波市	48.9
5	砺波市	48.2	滑川市	49.1
6	黒部市	49.2	黒部市	50.3
7	立山町	49.9	立山町	51.3
8	高岡市	50.2	高岡市	51.8
9	魚津市	50.8	魚津市	52.2
10	上市町	51.7	上市町	54.2
11	入善町	51.9	入善町	54.8
12	小矢部市	52.0	小矢部市	55.4
13	南砺市	52.7	南砺市	56.6
14	氷見市	53.2	氷見市	56.9
15	朝日町	56.1	朝日町	60.9

(注) 令和元年10月1日現在。

2 人口動態

(1) 人口の動向 - 自然動態は17年連続減少、社会動態は4年ぶりに減少、

純増減は△7,248人、21年連続減少—

平成30年10月1日～令和元年9月30日の自然動態（出生者数－死亡者数）では△6,435人と減少、社会動態（転入者数－転出者数）では△813人と減少した。

この結果、総人口は7,248人の減少となった。（表13、図9）

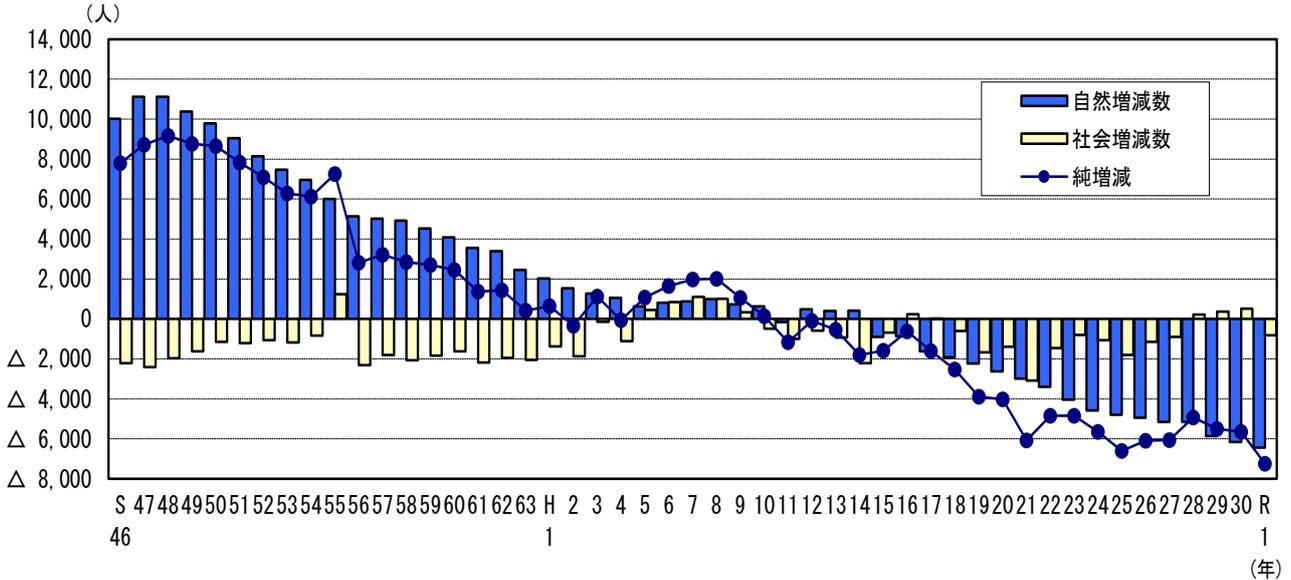
表13 人口動態の推移

年次	純増減	自然動態			社会動態		
		自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	転入者数	転出者数
昭和46年	7,800	10,022	17,949	7,927	△ 2,222	24,348	26,570
47	8,718	11,124	18,753	7,629	△ 2,406	23,560	25,966
48	9,157	11,124	18,856	7,732	△ 1,967	24,297	26,264
49	8,769	10,385	18,685	8,300	△ 1,616	23,232	24,848
50	8,655	9,794	17,747	7,953	△ 1,139	22,292	23,431
51	7,834	9,049	16,962	7,913	△ 1,215	21,032	22,247
52	7,085	8,146	15,955	7,809	△ 1,061	20,689	21,750
53	6,283	7,470	15,303	7,833	△ 1,187	20,569	21,756
54	6,119	6,960	14,436	7,476	△ 841	21,114	21,955
55	7,249	6,008	13,835	7,827	1,241	22,457	21,216
56	2,809	5,126	13,060	7,934	△ 2,317	18,829	21,146
57	3,212	5,017	12,686	7,669	△ 1,805	19,438	21,243
58	2,851	4,926	12,822	7,896	△ 2,075	19,734	21,809
59	2,700	4,529	12,598	8,069	△ 1,829	19,041	20,870
60	2,451	4,077	12,117	8,040	△ 1,626	18,757	20,383
61	1,366	3,556	11,627	8,071	△ 2,190	18,426	20,616
62	1,434	3,387	11,292	7,905	△ 1,953	18,569	20,522
63	411	2,462	10,848	8,386	△ 2,051	18,292	20,343
平成元年	649	2,028	10,427	8,399	△ 1,379	18,905	20,284
2	△ 346	1,528	10,189	8,661	△ 1,874	18,812	20,686
3	1,123	1,269	9,922	8,653	△ 146	20,407	20,553
4	△ 56	1,059	10,044	8,985	△ 1,115	20,522	21,637
5	1,074	626	9,815	9,189	448	21,263	20,815
6	1,654	809	9,924	9,115	845	21,553	20,708
7	1,981	872	10,404	9,532	1,109	22,216	21,107
8	2,005	993	10,180	9,187	1,012	22,198	21,186
9	1,062	727	10,222	9,495	335	22,181	21,846
10	144	634	10,340	9,706	△ 490	21,739	22,229
11	△ 1,159	△ 164	10,078	10,242	△ 995	20,388	21,383
12	△ 97	486	10,245	9,759	△ 583	21,591	22,174
13	△ 531	402	10,029	9,627	△ 933	21,411	22,344
14	△ 1,802	410	10,175	9,765	△ 2,212	20,469	22,681
15	△ 1,592	△ 902	9,543	10,445	△ 690	21,069	21,759
16	△ 620	△ 860	9,566	10,426	240	21,589	21,349
17	△ 1,614	△ 1,616	9,150	10,766	2	21,891	21,889
18	△ 2,524	△ 1,918	9,043	10,961	△ 606	21,414	22,020
19	△ 3,893	△ 2,228	8,881	11,109	△ 1,665	20,167	21,832
20	△ 4,020	△ 2,624	8,936	11,560	△ 1,396	19,174	20,570
21	△ 6,075	△ 2,993	8,583	11,576	△ 3,082	17,584	20,666
22	△ 4,850	△ 3,396	8,385	11,781	△ 1,454	16,777	18,231
23	△ 4,838	△ 4,033	8,190	12,223	△ 805	17,037	17,842
24	△ 5,646	△ 4,575	8,024	12,599	△ 1,071	17,003	18,074
25	△ 6,605	△ 4,795	7,898	12,693	△ 1,810	16,010	17,820
26	△ 6,088	△ 4,941	7,657	12,598	△ 1,147	15,939	17,086
27	△ 6,061	△ 5,164	7,667	12,831	△ 897	16,744	17,641
28	△ 4,935	△ 5,161	7,582	12,743	226	17,352	17,126
29	△ 5,500	△ 5,858	7,251	13,109	358	17,822	17,464
30	△ 5,647	△ 6,166	7,088	13,254	519	18,388	17,869
令和元年	△ 7,248	△ 6,435	6,771	13,206	△ 813	18,878	19,691

(注) 表13は「富山県人口移動調査」の人口動態による純増減数であり、国勢調査の結果を加減している表1の増減数とは一致しない。転入者数・転出者数には県内移動者数を含まない。

各年9月30日までの一年間(前年10月1日～各年9月30日)。

図9 人口動態の推移



(2) 自然動態

① 自然増減数

平成 30 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日の自然増減数は 6,435 人の減少となり、17 年連続の自然減少となった。出生者数が前年同期比 317 人減少の 6,771 人、死亡者数が前年同期比 48 人減少の 13,206 人であった。(図 10)

ア 出生者数

出生者数は昭和 46～49 年の第 2 次ベビーブーム期以降減少が続いており、平成 7 年からは 10,000 人を若干上回る水準で横ばいに推移していたが、平成 15 年に再び 10,000 人を割り、その後は減少化傾向が続き、令和元年は 6,771 人と、7,000 人を割った。

イ 合計特殊出生率〈厚生労働省「人口動態統計」による。各年 1 月 1 日～12 月 31 日〉

合計特殊出生率は、昭和 47 年の 2.12(全国 2.14)以降、低下傾向が続いている。昭和 49 年には人口置換水準(*)を割り込む 2.06(全国 2.05)となり、平成 18 年には 1.34(全国 1.32)まで低下した。平成 29 年は 1.55(全国 1.43)まで上昇したが、平成 30 年は 1.52(全国 1.42)に低下した。(図 11)

ウ 死亡者数

死亡者数は昭和 46～62 年まではほぼ 8,000 人前後の横ばいで推移していたが、その後微増を続け、平成 5 年に 9,000 人台となった。その後も微増が続き、平成 11 年には 10,000 人を超え初めて出生者数を上回った。平成 12 年から 14 年にかけては 9,000 人台に戻ったが、平成 15 年から再び 10,000 人を超え出生者数を上回った。平成 30 年には 13,254 人まで死亡者数が増加したが、令和元年は 13,206 人と減少した。

* 現在の人口を維持するのに必要な水準で、近年の日本では 2.07 前後の数値が該当するとされる。

図 10 自然動態の推移

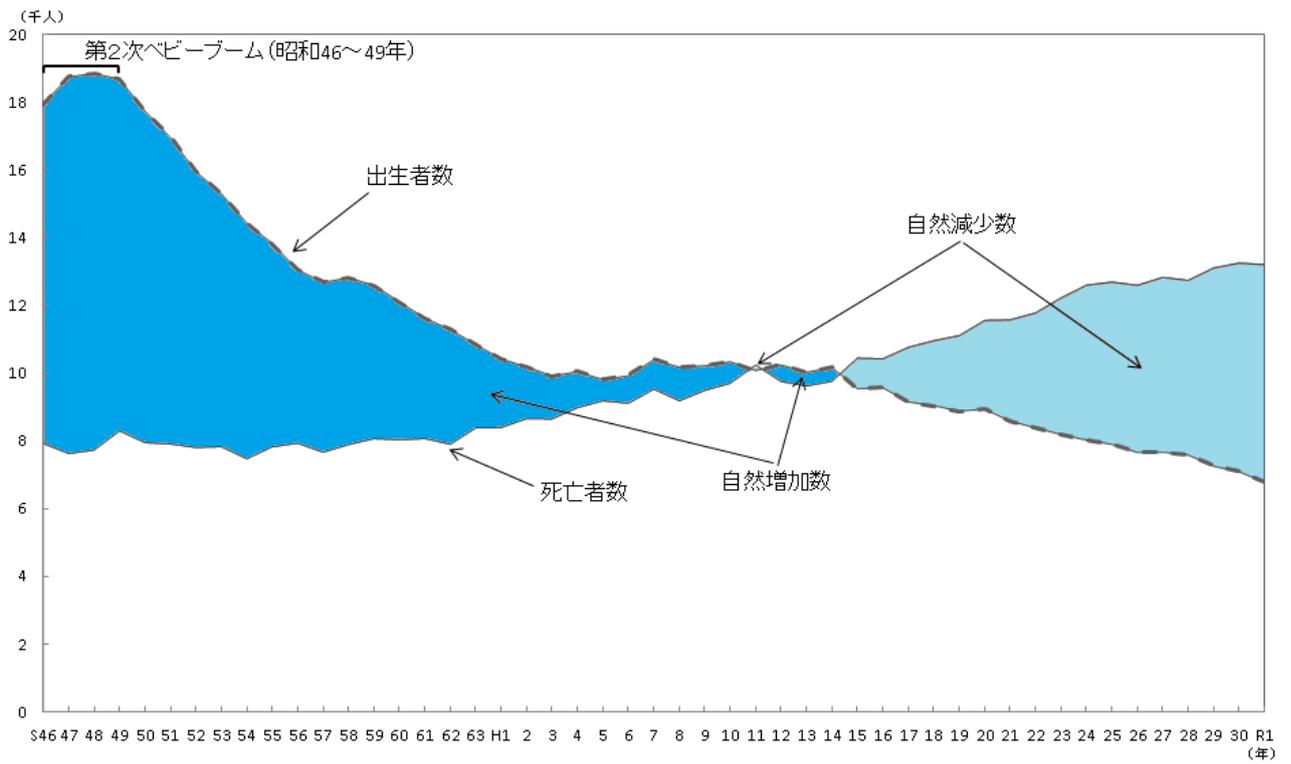
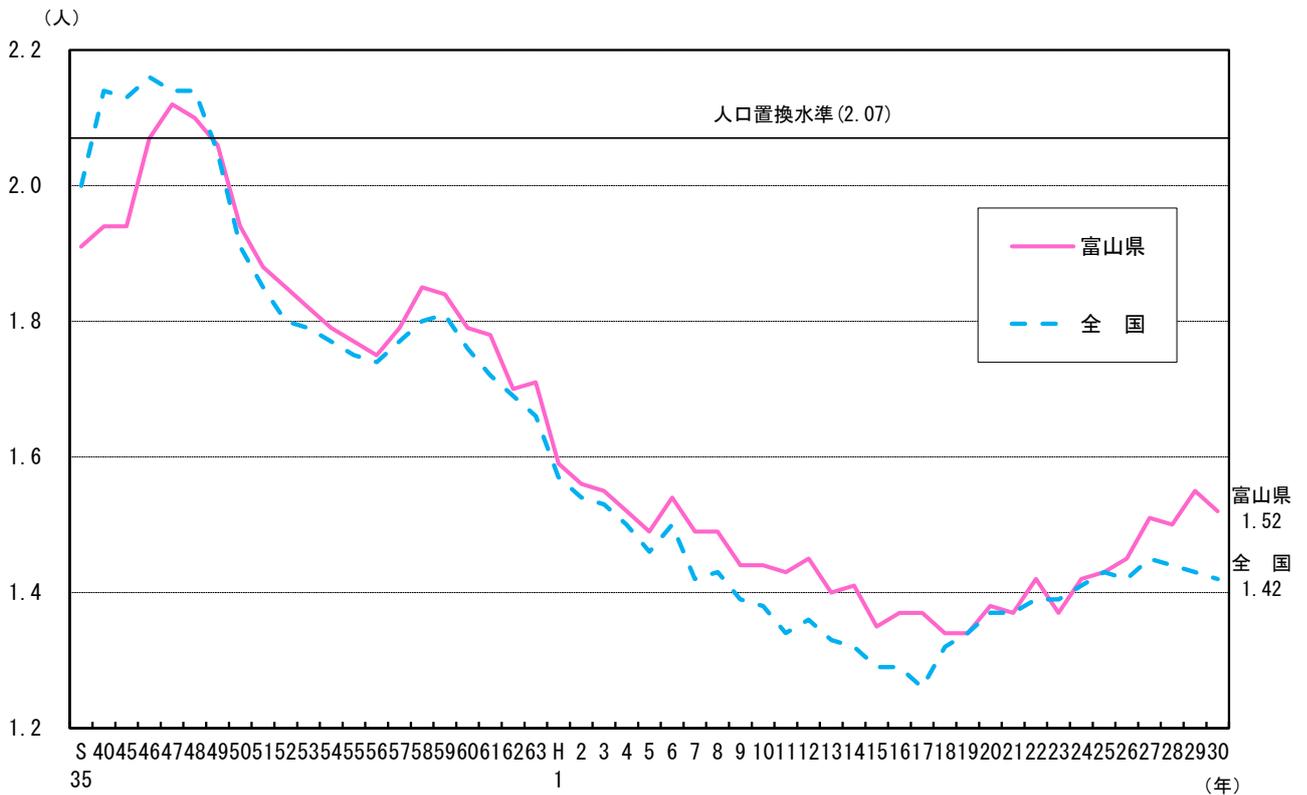


図 11 合計特殊出生率の推移



② 出生率、死亡率

平成30年10月1日～令和元年9月30日の出生率は、6.4（前年同期6.7）、死亡率は12.6（同12.6）となった。前年同期と比べると、出生率は0.3低下し、死亡率は変わらなかった。（表14）

③ 市町村別の動向

市町村別にみると、平成30年10月1日～令和元年9月30日の自然動態がプラスであったのは1村、マイナスが14市町であった。出生率の最も高いのは舟橋村（11.8）、最も低いのは朝日町（3.4）である。死亡率の最も高いのは朝日町（18.2）、最も低いのは舟橋村（10.8）である。

自然増減率でみると、最も高いのは舟橋村（0.10%）、最も低いのは朝日町（△1.48%）となっている。（表14）

表14 市町村別自然動態と順位

市町村名	自然増減			出生			死亡		
	実数	率*1	順位	実数	率*2	順位	実数	率*3	順位
	人	%		人(人口千人当たり)			人(人口千人当たり)		
県計	△6,435	△0.61		6,771	6.4		13,206	12.6	
富山市	△1,704	△0.41	2	3,032	7.3	2	4,736	11.3	13
高岡市	△1,143	△0.68	7	1,050	6.2	6	2,193	13.0	9
魚津市	△327	△0.78	8	227	5.4	8	554	13.2	8
氷見市	△542	△1.18	14	189	4.1	14	731	16.0	3
滑川市	△134	△0.41	3	233	7.2	3	367	11.3	14
黒部市	△196	△0.48	5	289	7.1	4	485	12.0	10
砺波市	△283	△0.58	6	295	6.1	7	578	11.9	11
小矢部市	△285	△0.97	10	156	5.3	9	441	15.0	6
南砺市	△536	△1.09	12	253	5.1	11	789	16.0	2
射水市	△423	△0.46	4	629	6.9	5	1,052	11.5	12
舟橋村	3	0.10	1	36	11.8	1	33	10.8	15
上市町	△213	△1.06	11	105	5.2	10	318	15.8	4
立山町	△212	△0.82	9	132	5.1	12	344	13.4	7
入善町	△270	△1.10	13	106	4.3	13	376	15.4	5
朝日町	△170	△1.48	15	39	3.4	15	209	18.2	1

(注) 平成30年10月1日～令和元年9月30日。

*1 自然増減率＝自然増減数(平成30年10月1日～令和元年9月30日)/平成30年10月1日現在推計人口×100
自然増減数＝出生者数－死亡者数

*2 出生率(人口千人当たり)＝出生数(平成30年10月1日～令和元年9月30日)/平成30年10月1日現在推計人口×1000

*3 死亡率(人口千人当たり)＝死亡数(平成30年10月1日～令和元年9月30日)/平成30年10月1日現在推計人口×1000

(3) 社会動態

① 社会移動

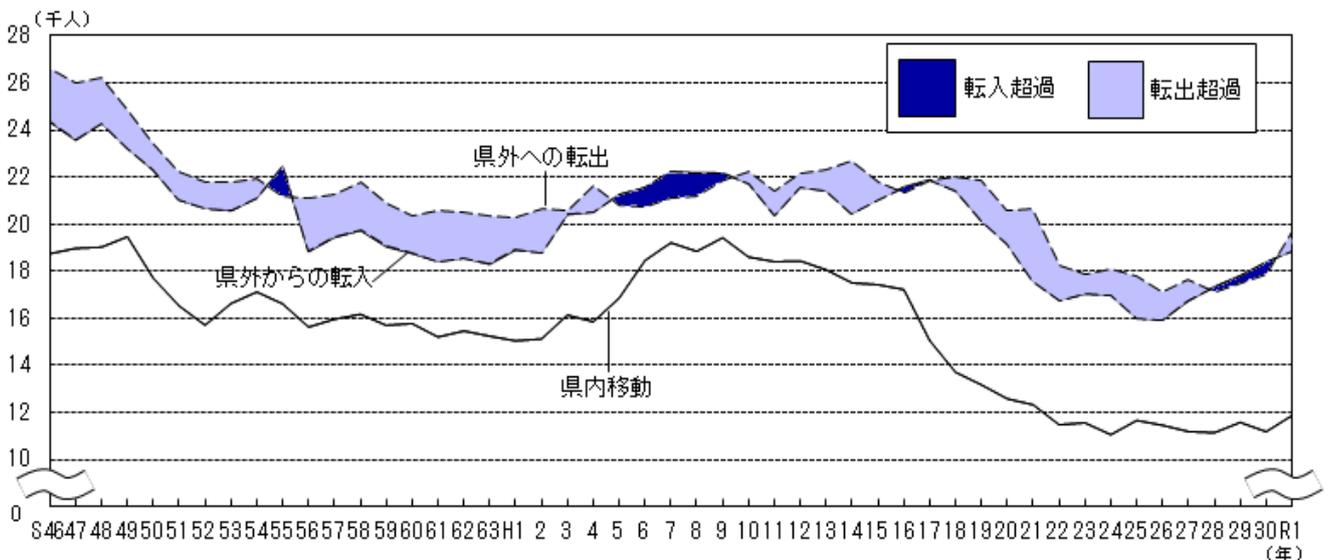
平成 30 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日の社会移動総数は 50,441 人となり、前年同期に比べ 2,997 人(6.3%)増加した。このうち県内市町村間で移動した人は 11,872 人で前年同期に比べ 685 人(6.1%)の増加となった。

一方、都道府県間で移動した人は、県外からの転入者が 18,878 人で前年同期に比べ 490 人(2.7%)の増加、県外への転出者が 19,691 人で前年同期に比べ 1,822 人(10.2%)の増加となりその結果、差引増減は 813 人の減少となった。

これまでの社会移動をみると、昭和 30 年代の後半以降の高度経済成長期において、毎年 5～8 千人の大幅な転出超過となっていたが、昭和 44 年の 8,404 人の転出超過をピークに年々減少し、昭和 54 年には 1 千人を割り、その翌年には転入超過に転じた。しかし、昭和 56 年から平成 4 年までの 12 年間は再び 1～2 千人台の転出超過が続いた。その後、平成 5 年から平成 9 年までの 5 年間は転入超過に転じ、平成 10 年からは再び転出超過となっていたが、平成 16 年は 7 年ぶりに転入超過となり、平成 17 年もわずかだが転入超過が続いた。その後、平成 18 年から平成 27 年の 10 年間は転出超過となっていたが、平成 28 年から平成 30 年の 3 年間は転入超過となり、令和元年は 4 年ぶりに 813 人の転出超過となった。

県内移動率(*1)は 1.13%で前年同期に比べ 0.07 ポイント上昇した。転入・転出率を前年同期と比べると、転入率(*2)は 1.80%(前年同期 1.74%)で 0.06 ポイント上昇し、転出率(*3)は 1.87%(前年同期 1.69%)で 0.18 ポイント上昇した。(図 12、表 15)

図 12 県内移動、県外転入・転出の推移



*1 県内移動率：平成 30 年 10 月 1 日現在人口に占める県内移動者数の割合

*2 転入率：平成 30 年 10 月 1 日現在人口に占める県外転入者数の割合

*3 転出率：平成 30 年 10 月 1 日現在人口に占める県外転出者数の割合

表 15 社会動態の推移

年次	社会移動数(人)					社会移動率(%)			
	総数	県内移動	県外移動			県内移動	県外移動		
			転入	転出	差引増減		転入	転出	転入超過 (△:転出超過)
昭和46年	69,667	18,749	24,348	26,570	△2,222	1.82	2.36	2.58	△0.22
47	68,500	18,974	23,560	25,966	△2,406	1.83	2.27	2.50	△0.23
48	69,590	19,029	24,297	26,264	△1,967	1.82	2.32	2.51	△0.19
49	67,550	19,470	23,232	24,848	△1,616	1.84	2.20	2.35	△0.15
50	63,434	17,711	22,292	23,431	△1,139	1.66	2.09	2.20	△0.11
51	59,809	16,530	21,032	22,247	△1,215	1.54	1.96	2.08	△0.11
52	58,151	15,712	20,689	21,750	△1,061	1.46	1.92	2.02	△0.10
53	58,961	16,636	20,569	21,756	△1,187	1.53	1.89	2.00	△0.11
54	60,191	17,122	21,114	21,955	△841	1.57	1.93	2.01	△0.08
55	60,291	16,618	22,457	21,216	1,241	1.51	2.05	1.93	0.11
56	55,605	15,630	18,829	21,146	△2,317	1.42	1.71	1.92	△0.21
57	56,647	15,966	19,438	21,243	△1,805	1.44	1.76	1.92	△0.16
58	57,720	16,177	19,734	21,809	△2,075	1.46	1.78	1.97	△0.19
59	55,618	15,707	19,041	20,870	△1,829	1.41	1.71	1.88	△0.16
60	54,921	15,781	18,757	20,383	△1,626	1.42	1.68	1.83	△0.15
61	54,250	15,208	18,426	20,616	△2,190	1.36	1.65	1.84	△0.20
62	54,559	15,468	18,569	20,522	△1,953	1.38	1.66	1.83	△0.17
63	53,882	15,247	18,292	20,343	△2,051	1.36	1.63	1.81	△0.18
平成元年	54,236	15,047	18,905	20,284	△1,379	1.34	1.69	1.81	△0.12
2	54,628	15,130	18,812	20,686	△1,874	1.35	1.68	1.84	△0.17
3	57,107	16,147	20,407	20,553	△146	1.44	1.82	1.83	△0.01
4	58,017	15,858	20,522	21,637	△1,115	1.41	1.83	1.93	△0.10
5	58,943	16,865	21,263	20,815	448	1.50	1.90	1.86	0.04
6	60,726	18,465	21,553	20,708	845	1.65	1.92	1.85	0.08
7	62,537	19,214	22,216	21,107	1,109	1.71	1.98	1.88	0.10
8	62,234	18,850	22,198	21,186	1,012	1.68	1.98	1.89	0.09
9	63,456	19,429	22,181	21,846	335	1.73	1.97	1.94	0.03
10	62,579	18,611	21,739	22,229	△490	1.65	1.93	1.97	△0.04
11	60,183	18,412	20,388	21,383	△995	1.63	1.81	1.90	△0.09
12	62,203	18,438	21,591	22,174	△583	1.64	1.92	1.97	△0.05
13	61,817	18,062	21,411	22,344	△933	1.61	1.91	1.99	△0.08
14	60,661	17,511	20,469	22,681	△2,212	1.56	1.83	2.02	△0.20
15	60,263	17,435	21,069	21,759	△690	1.56	1.88	1.95	△0.06
16	60,166	17,228	21,589	21,349	240	1.54	1.93	1.91	0.02
17	58,840	15,060	21,891	21,889	2	1.35	1.96	1.96	0.00
18	57,148	13,714	21,414	22,020	△606	1.23	1.93	1.98	△0.05
19	55,178	13,179	20,167	21,832	△1,665	1.19	1.82	1.97	△0.15
20	52,330	12,586	19,174	20,570	△1,396	1.14	1.73	1.86	△0.13
21	50,581	12,331	17,584	20,666	△3,082	1.12	1.60	1.88	△0.28
22	46,492	11,484	16,777	18,231	△1,454	1.05	1.53	1.66	△0.13
23	46,443	11,564	17,037	17,842	△805	1.06	1.56	1.63	△0.07
24	46,138	11,061	17,003	18,074	△1,071	1.02	1.56	1.66	△0.10
25	45,497	11,667	16,010	17,820	△1,810	1.08	1.48	1.65	△0.17
26	44,484	11,459	15,939	17,086	△1,147	1.06	1.48	1.59	△0.11
27	45,577	11,192	16,744	17,641	△897	1.05	1.56	1.65	△0.08
28	45,625	11,147	17,352	17,126	226	1.05	1.63	1.61	0.02
29	46,867	11,581	17,822	17,464	358	1.09	1.68	1.65	0.03
30	47,444	11,187	18,388	17,869	519	1.06	1.74	1.69	0.05
令和元年	50,441	11,872	18,878	19,691	△813	1.13	1.80	1.87	△0.08

(注) 各年9月30日までの一年間(前年10月1日～各年9月30日)。

社会移動率=移動者数(前年10月1日～各年9月30日)/前年10月1日現在人口×100

② 県内移動

平成30年10月1日～令和元年9月30日の県内市町村間の移動をみると、県内移動者数は11,872人で移動総数の23.5%を占めており、前年同期に比べて685人(6.1%)増加した。

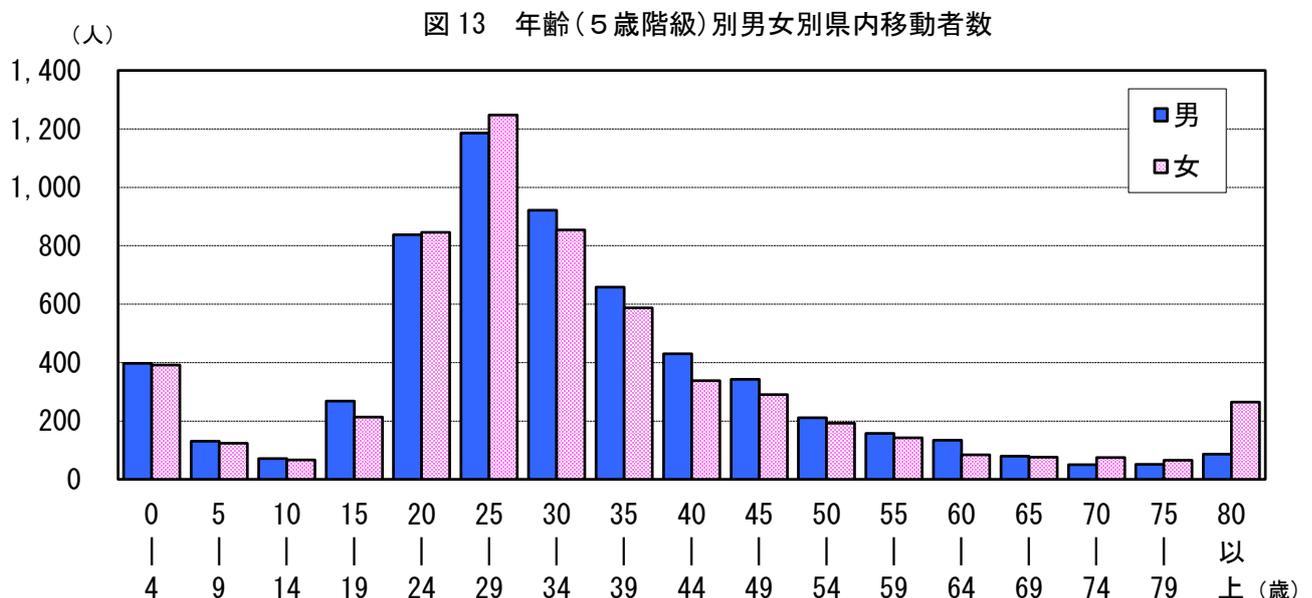
これを男女別にみると、男性は6,014人(構成比50.7%)、女性は5,858人(同49.3%)となり、男性が156人多くなっている。

年齢5歳階級別にみると、25～29歳層が2,433人(構成比20.5%)で最も多く、次いで30～34歳層1,775人(同15.0%)、20～24歳層1,684人(同14.2%)となっている。(表16、図13)

表16 年齢(5歳階級)別社会動態

年齢	県内移動			県外移動								
	計	男	女	転入			転出			差引増減		
				計	男	女	計	男	女	計	男	女
総数	11,872	6,014	5,858	18,878	10,900	7,978	19,691	11,104	8,587	△813	△204	△609
0-4	789	397	392	882	457	425	804	444	360	78	13	65
5-9	255	131	124	531	251	280	518	252	266	13	△1	14
10-14	138	71	67	300	152	148	268	141	127	32	11	21
15-19	481	268	213	1,021	537	484	1,069	601	468	△48	△64	16
20-24	1,684	838	846	4,166	2,457	1,709	4,619	2,410	2,209	△453	47	△500
25-29	2,433	1,186	1,247	3,683	2,197	1,486	4,304	2,521	1,783	△621	△324	△297
30-34	1,775	921	854	2,515	1,422	1,093	2,552	1,489	1,063	△37	△67	30
35-39	1,245	658	587	1,601	894	707	1,672	944	728	△71	△50	△21
40-44	768	430	338	1,182	686	496	1,139	657	482	43	29	14
45-49	633	343	290	911	575	336	887	563	324	24	12	12
50-54	404	211	193	629	416	213	617	413	204	12	3	9
55-59	300	158	142	479	318	161	402	267	135	77	51	26
60-64	218	134	84	315	199	116	231	149	82	84	50	34
65-69	155	79	76	249	154	95	165	108	57	84	46	38
70-74	125	50	75	159	91	68	127	56	71	32	35	△3
75-79	117	52	65	99	42	57	78	34	44	21	8	13
80以上	352	87	265	156	52	104	239	55	184	△83	△3	△80

(注)平成30年10月1日～令和元年9月30日。



③ 県外移動

平成30年10月1日～令和元年9月30日の県外からの転入者数は前年同期比490人増の18,878人、県外への転出者数は前年同期比1,822人増の19,691人であった。県外転入者と転出者を合わせた合計は38,569人で、これは移動者総数の76.5%にあたる。これを男女別にみると、男性で22,004人(構成比57.1%)、女性で16,565人(同42.9%)となっている。

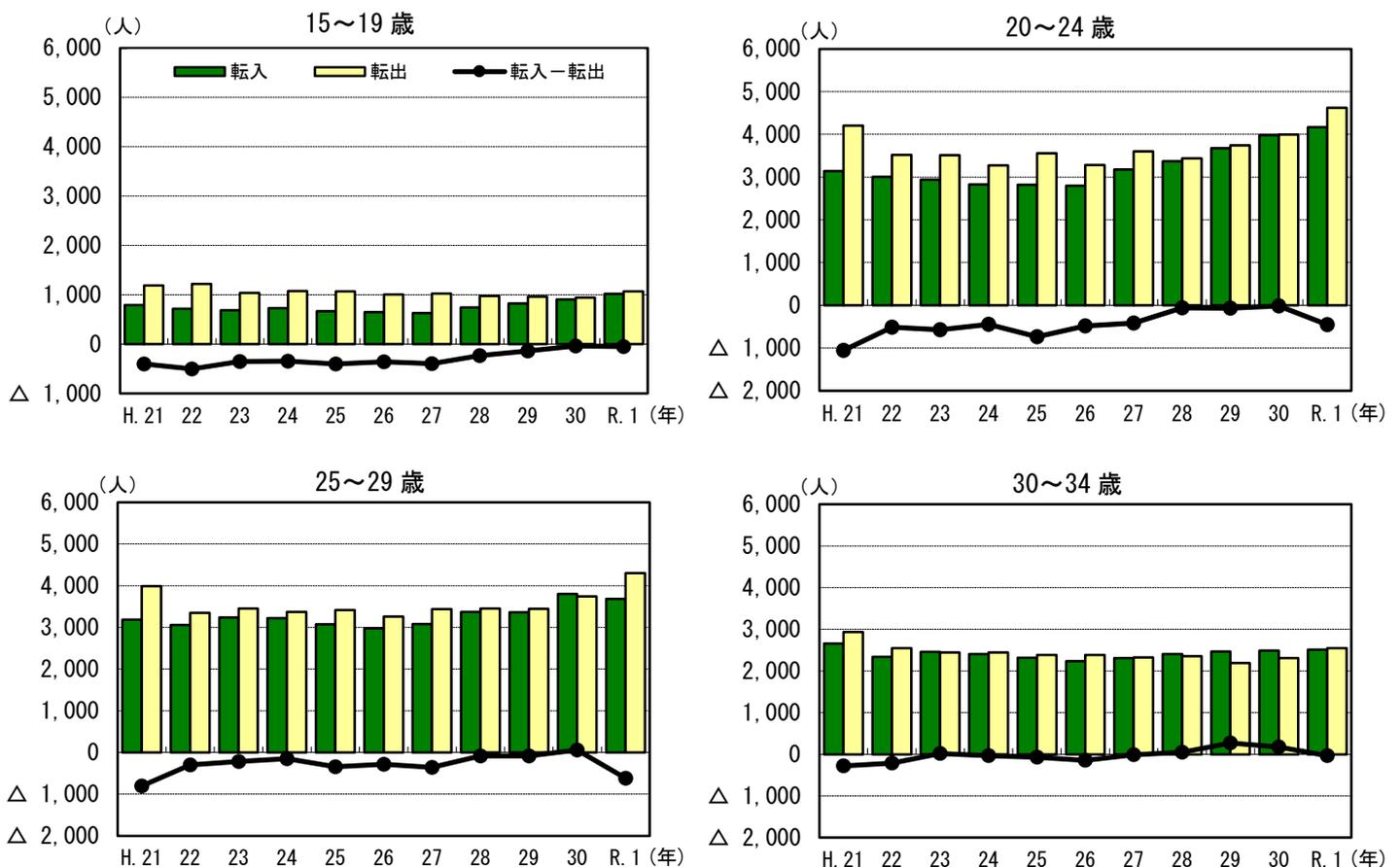
ア 年齢5歳階級別

年齢5歳階級別にみると、令和元年は「15～19歳」「20～24歳」で引き続き転出超過となっている。

「25～29歳」は平成18～29年まで転出超過となっていたが、平成30年に転入超過となり、令和元年は転出超過となった。

「30～34歳」は平成24～27年まで転出超過となっていたが、平成28～30年まで転入超過となり、令和元年は転出超過となった。(表16、図14)

図14 年齢階級別県外転出入者数の推移



イ 都道府県別

転入元を都道府県別にみると、転入者数が最も多いのは石川県で、次いで東京都、愛知県、大阪府、神奈川県の間となった。(昨年と同順。)

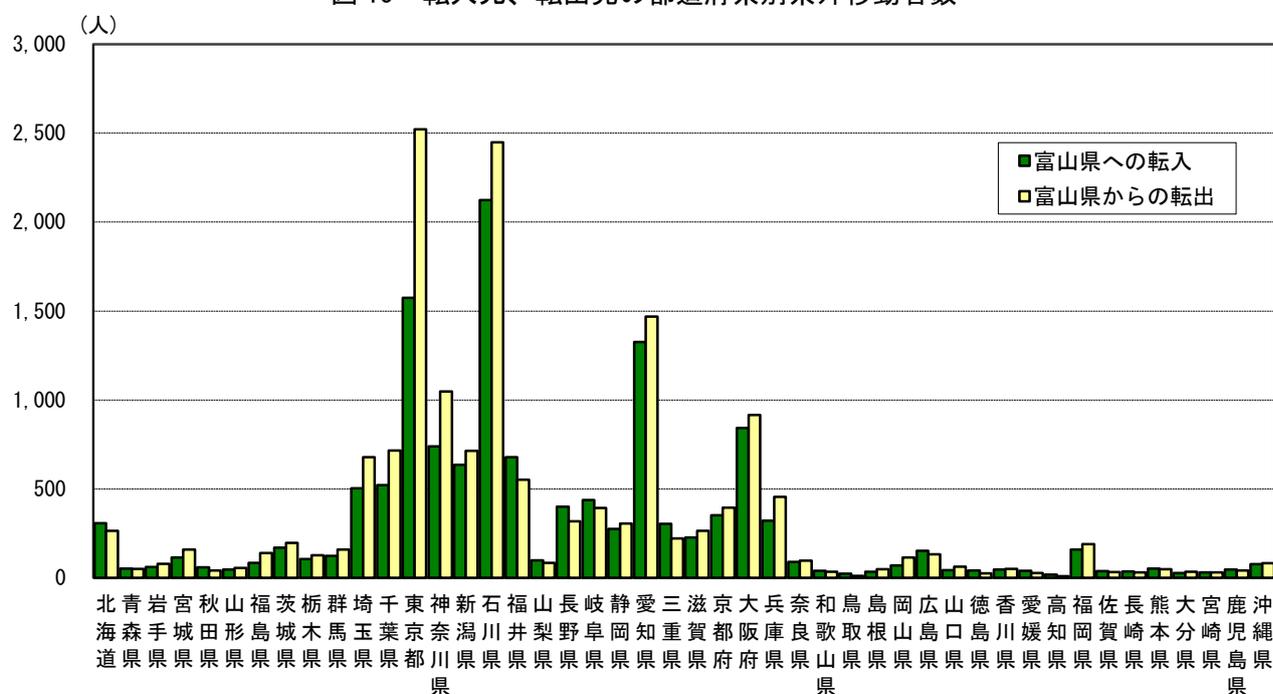
一方、転出先では、転出者数が最も多いのは東京都で、次いで石川県、愛知県、神奈川県、大阪府の間となった。(昨年は1位が石川県、2位が東京都で、他は同順。)(表17、図15)

表 17 転入元、転出先別の都道府県順位（国外を除く）

富山県への転入、構成比				富山県からの転出、構成比			
総数	13,554人	(人)	(%)	総数	15,878人	(人)	(%)
1	石川県	2,124	15.7	1	東京都	2,521	15.9
2	東京都	1,574	11.6	2	石川県	2,449	15.4
3	愛知県	1,327	9.8	3	愛知県	1,469	9.3
4	大阪府	843	6.2	4	神奈川県	1,048	6.6
5	神奈川県	739	5.5	5	大阪府	915	5.8

(注) 総数には転出先/転入元が国外・その他を含まない。平成30年10月1日～令和元年9月30日。

図 15 転入元、転出先の都道府県別県外移動者数



④ 市町村別転入・転出

平成30年10月1日～令和元年9月30日の市町村別の転入者数、転出者数(県外移動を含む)をみると、転入者数が最も多いのは富山市の13,116人、次いで高岡市4,639人、射水市2,732人と続いている。また、転入率でみると、舟橋村の4.91%が最も高く、次いで砺波市3.84%、滑川市3.43%の順となっている。

一方、転出者数が最も多いのは富山市の12,928人、次いで高岡市4,973人、射水市2,561人と続いている。また、転出率でみると、砺波市の3.80%が最も高く、次いで黒部市3.46%、舟橋村3.34%の順となっている。(表18)

県内市町村間の人口移動で、転出者の最も多い転出先市町村を線で結ぶと図16のとおりとなり、富山市を1位の転出先とするのは9市町村、高岡市へは4市であった。

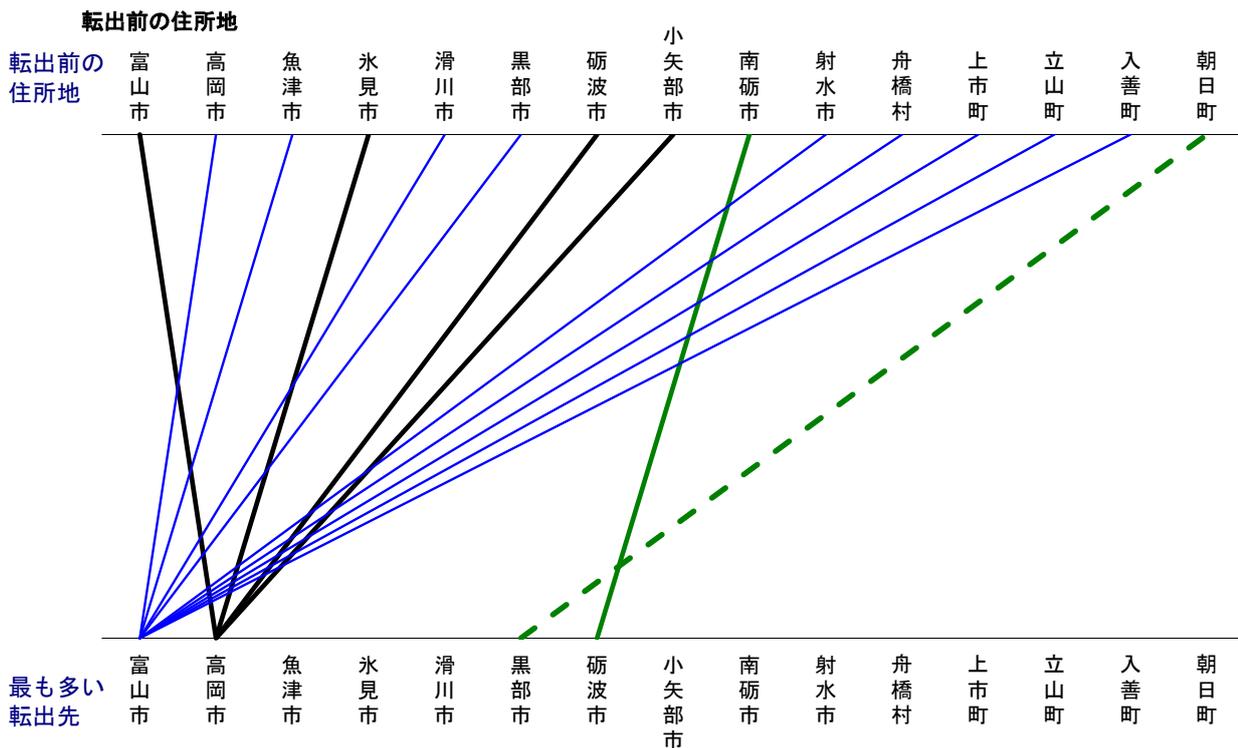
表 18 市町村別社会動態

市町村名	社会増減			転入			転出		
	実数	率*1	順位	実数	率*2	順位	実数	率*3	順位
	人	%		人	%		人	%	
県計	△ 813	△ 0.08		30,750	2.93		31,563	3.01	
富山市	188	0.05	5	13,116	3.14	5	12,928	3.10	4
高岡市	△ 334	△ 0.20	9	4,639	2.74	8	4,973	2.94	9
魚津市	△ 21	△ 0.05	6	1,257	3.00	6	1,278	3.05	5
氷見市	△ 375	△ 0.82	15	770	1.68	15	1,145	2.50	15
滑川市	140	0.43	2	1,116	3.43	3	976	3.00	7
黒部市	△ 47	△ 0.12	8	1,352	3.34	4	1,399	3.46	2
砺波市	22	0.05	4	1,860	3.84	2	1,838	3.80	1
小矢部市	△ 28	△ 0.10	7	762	2.59	9	790	2.69	12
南砺市	△ 220	△ 0.45	12	1,069	2.17	14	1,289	2.62	13
射水市	171	0.19	3	2,732	3.00	7	2,561	2.81	10
舟橋村	48	1.57	1	150	4.91	1	102	3.34	3
上市町	△ 153	△ 0.76	14	455	2.26	12	608	3.01	6
立山町	△ 73	△ 0.28	11	578	2.25	13	651	2.53	14
入善町	△ 50	△ 0.20	10	631	2.58	10	681	2.78	11
朝日町	△ 81	△ 0.70	13	263	2.29	11	344	2.99	8

(注) 平成30年10月1日～令和元年9月30日。

- *1 社会増減率＝社会増減数(平成30年10月1日～令和元年9月30日)/平成30年10月1日現在推計人口×100
社会増減数＝転入者数－転出者数
- *2 転入率＝転入者数(平成30年10月1日～令和元年9月30日)/平成30年10月1日現在推計人口×100
- *3 転出率＝転出者数(平成30年10月1日～令和元年9月30日)/平成30年10月1日現在推計人口×100

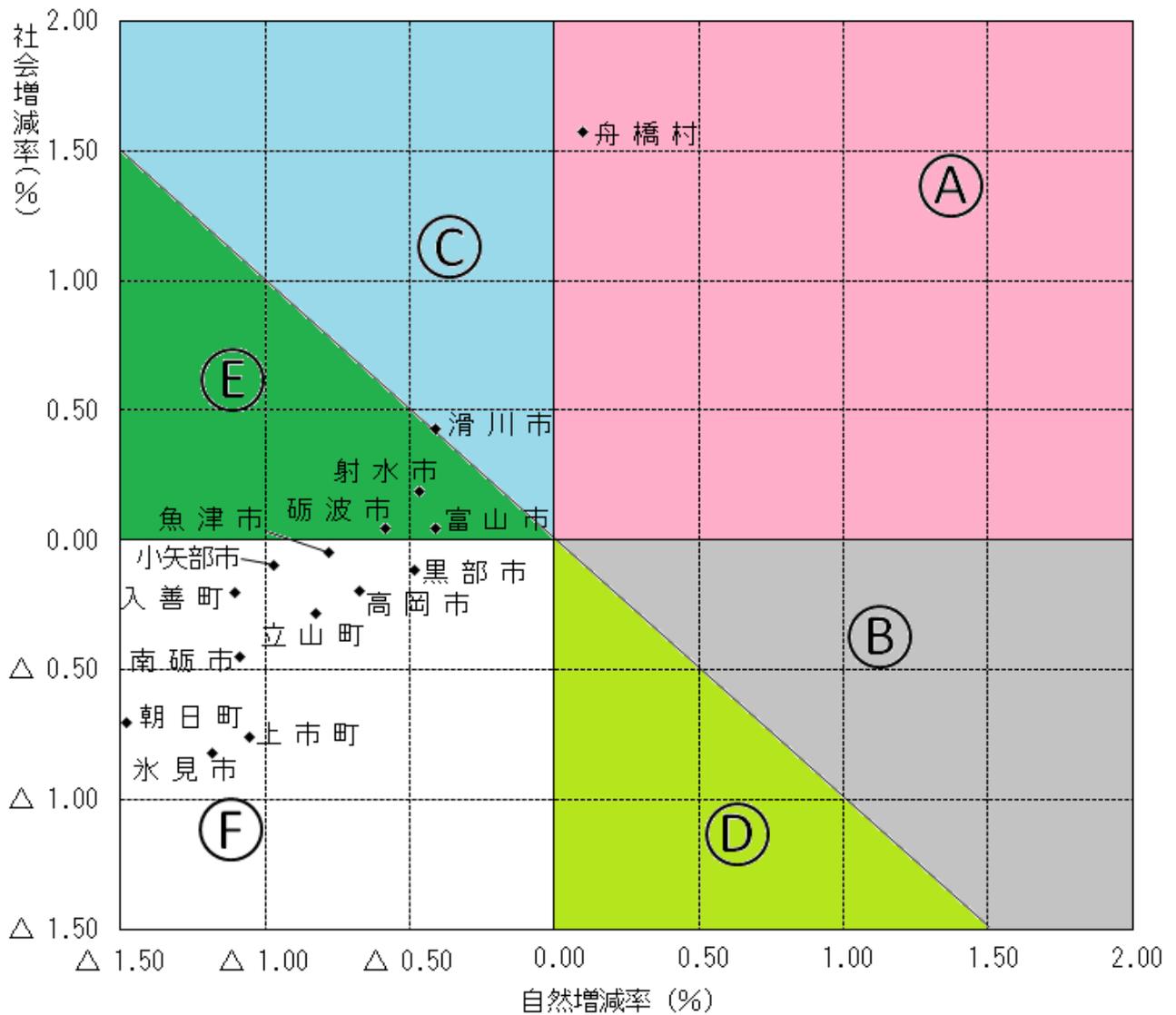
図 16 県内市町村間の人口移動における転出者の最も多い転出先(同一市町村内での移動を除く)



(4) 市町村別の人口動態 —人口増加は2市村、減少は13市町—

- A:人口増加（自然増・社会増）：舟橋村
- B:人口増加（自然増・社会減）：なし
- C:人口増加（自然減・社会増）：滑川市
- D:人口減少（自然増・社会減）：なし
- E:人口減少（自然減・社会増）：富山市、砺波市、射水市
- F:人口減少（自然減・社会減）：高岡市、魚津市、氷見市、黒部市、小矢部市、南砺市、上市町、立山町、入善町、朝日町

図 17 市町村別の自然動態と社会動態(H30. 10. 1~R1. 9. 30)



(5) 外国人の人口動態

平成30年10月1日～令和元年9月30日の外国人の動態は1,348人増加し、令和元年10月1日現在の外国人の人口は16,745人となった。(図18、表19)

図18 外国人人口の推移



(注) 昭和60年～平成27年は「国勢調査」、平成28年～令和元年は「富山県人口移動調査」による。

表19 外国人の人口動態

(人)

	自然動態			社会動態				純増減 (自然動態+ 社会動態)
	出生者数 (a)	死亡者数 (b)	差引増減 (a-b)	県内移動者数	県外からの転 入者数(c)	県外への転出 者数(d)	差引増減 (c-d)	
平成26年	93	30	63	757	2,909	2,939	△ 30	33
平成27年	87	24	63	797	3,433	3,058	375	438
平成28年	127	30	97	846	3,888	2,900	988	1,085
平成29年	100	28	72	1,031	4,342	2,995	1,347	1,419
平成30年	114	13	101	1,226	5,666	3,642	2,024	2,125
令和元年	121	23	98	1,423	6,231	4,981	1,250	1,348

(注) 前年10月1日～各年9月30日までの一年間。

平成27年より基準値を平成22年国勢調査から平成27年国勢調査確報値に変更したため、平成27年外国人人口は、前年の人口に平成27年の人口動態を加減しても数値は一致しない。